

行一念釈・信一念醒

小林昭英

親鸞の『教行信証』に於ける「行巻」の行一念釈と「信巻」の信一念釈とを比較検討しその共通性を検討することとする。

行一念釈は『本典』「行巻」の両重因縁の釈の次に、

「凡就^レ往相回向行信、行則有^レ一念、亦信有^レ一念。言^レ行之一念^ト者、謂^レ就^レ称名偏数^ニ顯^ス開^ス選^ス擇^ス易行^ヲ至^ス極^ヲ。」(真宗聖教全書一三四)

とある。ここに釈せられる行一念が「称無碍光如来名」の称の義である。そして一声の念仏に約して名号を余行に簡べる弥陀選^ス擇^スの願意を顯し、日を定めず、時を選ばず、偏数を限定しない易行至極の真実行であることを示してある。弥陀の廣大難思を顯わすのに、『大經』流通分を引いて、一念大利無上功德の名号であることを明らかにし、善導の四文を引用されている。

「信^ト知^ル、大^ニ利^ニ無^シ上^者、一^ニ乘^ニ真^ニ實^ニ之^レ利^益也。小^ニ利^ニ有^シ上^者、則^レ是^ハ八

行一念釈・信一念醒(小林)

万四千伎門也。」(真宗聖教全書一三四)

と名号の妙徳を讃嘆し、

「今^レ彌^レ勒^レ付^レ囑^レ之一^レ念^ト、即^レ是^ハ一^レ聲^ト、一^レ聲^ト即^レ是^ハ一^レ念^ト、一^レ念^ト即^レ是^ハ一^レ行^ト、一^レ行^ト即^レ是^ハ正^レ行^ト、正^レ行^ト即^レ是^ハ正^レ業^ト、正^レ業^ト即^レ是^ハ正^レ念^ト、正^レ念^ト即^レ是^ハ念^レ仏、則^レ是^ハ南^レ無^レ阿^レ彌^レ陀^レ仏^ト也。」(真宗聖教全書一三五)

と六字に結帰して、他力一乗の大行は念仏であることを顯示されている。そして『大經』第十八願文の「乃至十念」の選^ス擇^ス本願行である十念の念仏を十声の称名と取るべきか、乃至の釈義中従少向多にして上^レ尽^レ一^レ形^ノ多^ノ念^ノの称名と取るべきか、従多向少に約して一声の称名と取るべきかのためこの釈義が設けられているのである。

親鸞は『一念多念又意』の中で、

「これにて一念多念のあらそひあるまじきことは、おしはからせたまふべし、浄土真宗のならひには、念仏往生とまふすなり、またく一念往生・多念往生とまふすことなし、これにてしらせたまふべし。」(真宗聖教全書二六一九)

とあるによつても一念多念に固執するものでないことが解る。

この行一念は多念の称名でなく、最初に称える称名の処に、法蔵菩薩の選択の易行が開顯されている。

従つて一声の称名の処に大利無上が成就されているのである。称名の數量に關係のない念仏そのものの絶対価値を示された処に法然の苦心があつたが、親鸞はそれを忠実に受けている。

『大經』には三ヶ処に一念を説く文があり、「本願成就文」と三輩中「下輩の文」と付嘱の文である。法然はどれも行一念とみられたが、親鸞は「本願成就文の」一念は信の一念、「付嘱の一念」は行一念とみられた。

処が法然も『選択集』利益章で、
 「既以一念為一無上。當知、以十念為二十無上、又以百念為三百無上、又以千念為千無上。如是展轉、從少至多。念仏恒沙、無上功德、復應恒沙。」（真宗聖教全書一一九五三）

と「付嘱の一念」を、一念と千念を等しくみている。よつてこれは凡夫の易行の勝業であることを示されている。

親鸞は口業の称名が法体大行たる南無阿彌陀仏であると取る処に已証の意義がある。そして行の一念を一声の称名に寄せて頭わしてあるが、自然と多念に及ぶものである。

「行一念釈」の『礼讚』の引用文のあとで、

「經言乃至、釈日乃至。乃下其言雖異、其意惟一也。」（真宗聖教全書二一三四）

とあり、乃至には一多包容の義がある。『一念多念文意』に、「乃至は、おほきおも、すくなきおも、ひさしきおも、ちかきおも、さきおも、のちおも、みなかねおさむることはなり。」（真宗聖教全書二一六〇五）

とある。多くをいうなら一生涯の念仏をいい、少きをいうなら一声の念仏でもよく、一声に法体が全顯されているからである。

又、教忍御坊への御返事（『御消息集』第三通）で、

「まづ一念にて往生の業因はたれりとまふしさふらふは、まことにさるべきことにてさふらふべし、さればとて一念のほかに念仏をまふすまじきことにはさふらはず、（中略）かならず一念ばかりにて往生すといひて、多念をせんは往生すまじきとまふすことはゆめゆめのあるまじきことなり。」（真宗聖教全書二一六九八）

とあり、一念に往生が決定することが鮮明にされ、多念の称名を相続し、これこそが法然の主張する念仏往生であることとを明かにされている。

次に、「信巻」の信一念釈をみるに、

「夫按、真実信樂、信樂有、一念、一念者、斯顯、信樂開発、時剋之極促、彰、广大難思慶心、也。」（真宗聖教全書二一七一）

と「行巻」の行一念を承け、本願の三心に対して、「本願成

就文」の「聞其名号、信心歡喜、乃至一念。」の一念がこの三心即一の一心であることを会釈されたのである。

法然は『大經』に、

「設_レ我得_レ仏、十方衆生、至_レ信心樂欲_レ生_レ我國、乃至十念、若不_レ生者、不取_レ正覺。」(真宗聖教全書一一九)

とあるのを「至信心樂欲生我國」の三心より「乃至十念」申心とみて、『選択集』「本願章」に、

「若_レ我成_レ仏、十方衆生、稱_レ我名号、下至_レ十声、若不_レ生者、不_レ取_レ正覺。」(真宗聖教全書一一九四〇)

とせられた。これは『觀經』「下々品」の十声々仏往生より「乃至十念」を説明されたのである。

然るに親鸞はこれに反し、『大經』の成就の一念は『如来会』によつて、

「他方_レ仏国、所有衆生、聞_レ無量寿如来名号、乃至能_レ発_レ一念淨信、歡喜、愛樂、所有善根廻向、願_レ生_レ無量寿国、者、隨_レ願皆生得_レ不退轉乃至無上正等菩提。」(真宗聖教全書一一二〇三)

とあり、行の一念でなく、信の一念であることがわかる。

「成就」よりみると「第十八願文」は行ならず信である。

而るにこの信一念積では、一念の信心、一念の信樂、一念即一心の義を闡明にされている。そして信樂開發の時剋の極促とは、信一念の時をいう。

親鸞は『正信偈』に「能_レ発一念喜愛心」といい、『文類正

信偈』に「信心開發即獲忍」といつてられる。

上_レ尺一形、下至十声の念仏は「成就文」により、「乃至一_レ声」の念仏となつた処が行の一念である。更に一步前進させ、「念仏用さんとおもひたつ心」の信の一念とされた。

即ち初聞より一生相統する間を時剋とし、その時剋の極促を信の一念という。促に対する延の義は乃至である。

『觀經』の上々品の、

「具_レ此功德、一日乃至七日、即得_レ往_レ生。」(真宗聖教全書一一六一)

の文を釈し、『散善義』に、

「正明_レ修行時節延促。上_レ尺一形、下至_レ一日・一時・一念等。」(真宗聖教全書一一五四三)

とあるのがこれである。親鸞はこれを『文類聚鈔』に受けて、「復_レ乃至一念」者、是_レ更_レ非_レ言_レ觀想・功德・徧教等之一念、就_レ獲_レ得_レ往生心行、時節延促、言_レ乃至一念也。応_レ知。」(真宗聖教全書一一四四四)

と言ひ、一念は促であり、時間の窮りであり、乃至は延であり、相統を顯示している。極促とは最初の一念の時の義である。受法最初の一念の時、報土往生の因が決るため、最初の一念の時剋をいう。往生の因は信心のみとなり、ここに信心正因義が成立する

信も行も名号の全頭であり、名号を我々の心に受けるは信

心であり、口に出るは称名である。往生が決定するのは信一念であり、称名は混入しない。

信の一念について、古来二義が存在する。一は「時剋の極促」とある時刻の面であり、二は「言一念者、信心无二心故日一念、是名一心。一心則清浄報土真因也。」（真宗聖教全書二七二）とある信相の面である。

信の一念は二方面からみられるか、各々内容をいいあらわしており、二つの異なつた意味を持つていたのでない。

『一念多念文意』に、

「一念といふは、信心をうるべききはまりをあらはずことばかり。」（真宗聖教全書二一六〇五）

とあるがまさにこれである。時間という概念のつきた処を一念という。よつて時剋の極促という。

『往生論註』の八番問答に於て、本願の十念の念の義を明すに、

「問日。幾時名爲一念。答日。百一生滅名一刹那、六十刹那名爲一念。此中云念者、不取此時節也。」（真宗聖教全書一三二〇）

と時剋の義を明白に廃棄されている。それにもかかわらず「時剋の極促」と時剋の義を取つてゐる。

これによつても曇鸞が捨てられた時間、即ち一般常識の時間とは質を異にすることが解る。

第二の信相の方面よりいへば、この最短時の一念は、そのまま本願を信じて二心なき心である。

『浄土真要鈔』の本に、

「この一念につめて隠頭の義あり、顕には、十念に對するとき一念といふは称名の一念なり、隠には真因を決了する安心の一念なり、これすなわち相好光明等の功德を觀想する念にあらず、たゞかの如来の名号をきゝえて機教の分限をおもひさだむるくらゐをさすなり。」（真宗聖教全書三一二二八）

とあり、この様に時間の極りたる所と云い一心のない意義を含み、二心なきところが又時間の至極をあらわしてゐる。

親鸞は『本典』を撰述するにあたり、五願開示の法門を取つてゐる。

而るに「行巻」に第十八願の「乃至十念」を以てせず、第十七願の「諸仏称名之願」を以てしてあるのは全く第十七願の我名を以つて「行巻」の頭とする意図は明白であり、「信巻」の信はこの法体の名号を信する信であり、その信一念に報土の真因が決定するとみたのが親鸞の信心往生説である。

しかし、この信とは法然の念仏往生に具した信心であり、『選択集』「三心章」に、

「念仏行者、必可具足三心之文」（真宗聖教全書一一九五七）とあるのがそれである。